

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500191		
法人名	特定非営利活動法人ロータス会		
事業所名	グループホーム延寿園(1F 延ユニット)		
所在地	北海道余市郡余市町黒川町12丁目3番地 ロータスビル		
自己評価作成日	令和3年12月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172500191-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は、 「家庭的で、経済的負担の少ないグループホームにする」 「穏やかで楽しい尊厳のある生活を保障する」 「その人らしい、当たり前な生活を保障する」 の三つを基本理念として、平成15年4月より余市町で二番目の高齢者グループホームとして開業しています。平成19年8月には、訪問介護やデイサービス、住宅型有料老人ホームを同一建物内にもつ、複合的介護事業所として新築されたロータスビルに移転しており、そのメリットを活かし入居者様に質の高いサービスを提供できるよう各部署が有機的に連携する一方、利用料を極力低く抑えて家庭的な雰囲気を大事にし、入居者様に安心して楽しく生活していただくよう、職員一同尽力しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所はJR余市駅に近く、周辺にはホームセンターやドラッグストア、大型スーパー等の商業施設があり、近くには協力医の勤医協余市診療所があって生活の便に恵まれた環境にある。鉄筋コンクリート造り3階建てで1・2階がグループホームで、1階の一部にはデイサービスが併設され、3階には高齢者賃貸マンションがある。隣接の母体法人系の「誠諦寺」がNP〇法人ロータス会を立ち上げ、「家庭的で、経済的負担の少ない、グループホーム」などを理念に掲げ、事業所の運営をサポートしている。地域のソーラン祭りやロータス会主催の盆踊りなどの行事に利用者や地域住民が参加して交流していたが、コロナ禍により自粛している。コロナ終息後に交流が再開できる事を祈り、職員は日々サービス支援の向上を目指している。介護職員初任者研修生受け入れや介護教室を開催する等、地域に貢献している。自然災害時に施設の一時避難場所として町内会に提案するなど、地域密着を図るよう努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55まで日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が みられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム設立時に制定した事業所理念をホーム内の見えやすいところに掲示しつつ、新規入居時などにご家族に説明する一方、各職員には理念の暗記と復唱を促し、実践に役立てている。	事業所理念を各ユニットに掲示し、会議では理念を唱和しながら、職員一同が共に支え合い、日々のケアに結びつけるよう努力しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会(はまなす老人会)との介護講習会を通じた連携や、法人共催の盆踊りなどを通じ、交流を行っているが、昨今は新型コロナウイルス感染症のため交流する機会は減少している。	コロナ禍に伴い、規制がある中、地域住民との交流は自粛を余儀なくされているが、施設を利用した介護講習会やロータス会主催の盆踊りの行事に地域住民が参加する等、交流の場を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会向けに年一回介護講習会を開催している(現在はコロナの為休止中)ほか、地元高校での生徒向け初任者研修の講師派遣、インターシップの協力や認知症カフェなどのイベント参加を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の運営推進会議の中で、グループホームとしての行事等の報告、外部評価の結果報告などを行っているほか、実際に利用者にも会議に出席していただき、委員の質問に答えていただく等の取組みを行っている(現在はコロナの為一時的に休止)。	通年町職員や地域住民、民生委員、家族等が参加し会議を年6回開催しているが、コロナ禍のため書面会議として開催している。運営報告や事故報告等を議事録にまとめ、各運営委員に報告し、意見や助言を得て、事業運営に反映させている。利用者家族には「延寿園だより」と共に議事録を送付し、理解を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として、余市町民生部保険課介護保険係の職員にご参加いただき、助言や情報提供を行っているほか、コロナワクチン接種においては町担当者と緊密に連携を取り、法人職員・入居者全員の二回接種をR3年6月までに完了している。	北後志連絡会やグループホーム連絡協議会に参加し、行政の情報や他の事業所の現状を情報交換しながら事業運営に反映させている。町担当者と連絡を密に取り、今後のコロナ対策についてはオンラインシステムで話し合い、協議を重ねている。管理者は情報を取りまとめて内部研修を行い、職員と意識を共有し、事業運営に活かしている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所の身体拘束に関する指針に基づき、原則身体拘束を行わないケアを実践しており、厚生労働省「身体拘束ゼロへの手引き」にある具体例にあるような身体拘束を行わない、やむを得ず行う場合は例外三原則に基づいた対応を行っている。	内部研修として身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、「拘束の5原則」等の研修を行っている。コロナ禍のため、グループホーム連絡協議会やSOSネットワーク会議に参加することは自粛しているが、オンラインシステムにて得た情報を職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	厚生労働省「高齢者虐待防止の基本」を参考にし、社内研修という形で各職員への説明や回覧を通じ、高齢者虐待の基本や防止に関する知識の共有に努めている。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を通じ、権利擁護について学ぶ機会を持っている職員はおり、成年後見制度や自立支援事業との連携を行った事例はあるものの、他の職員と共有する機会や職員全員に対する周知などは十分設けられていないのが実情である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退居時や介護保険法改正によるサービス改定時においては、文書や口頭での説明を随時行い、ご本人もしくはご家族の理解や了承を頂くよう心掛けている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記し入居時に説明もしている。実際の苦情や相談は経過を記録としてまとめ現況報告として毎年町に報告し、外部評価時における家族アンケートも運営推進会議にて公表し、運営への意見を伺う機会としている。	日々のケアから利用者の意見や要望を聞くよう心がけている。運営推進会議で外部評価時における家族アンケートを参考にしながら、家族からの意見や要望の報告を行ない、運営に反映させている。オンライン研修会を開催して、今後の事業運営に役立つよう検討を行なっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人理事長も出席し、職員から運営に対する意見を聞く場として設けていた全体集会是コロナ過で一時中断しているものの、ケアカンファレンスやその他の機会でも運営に対する意見や要望が出た場合は、その都度管理者や事務長が意見の聞き取りを行い、運営の改善につながるよう努めている。	管理者は日頃から職員と話しやすい雰囲気作りに努め、職員会議等では意見や要望を聞いて運営に反映させている。年3回程度の事業所全体での合同会議で待遇改善等についても職員の意見を尊重し意見反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況を管理者や事務長が把握し、意欲をもって働ける環境の整備として待遇面やその他研修や福利厚生面での整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の経験や所持している資格、勤務状況を把握したうえで、キャリアアップにつながる研修の案内やサポートを随時行っており、今年度は職員一名が認知症介護実践研修に法人の費用負担で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のグループホーム連絡協議会に加盟しているほか、医療や福祉分野も合わせた多職種連携を目的とした団体にも参加し、積極的交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、ご本人様との面談を行い不安や要望などを可能な限りお聞きし、ご本人の不安な思いを汲み取り安心していただけるような信頼関係の構築に努めている。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、ご本人とともにご家族との面談や電話連絡を通じ、要望や疑問点、不安な点についてお聞きし、誠意をもって対応していく中で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のお話を傾聴し、本当に必要としていることを確認し、見極めることに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が必要としているサービスの提供を行う一方、ご本人様が出来ることはお手伝いも含めて参加していただくという、共同生活者の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時より、ご家族のご本人へのサポートを可能な範囲で積極的にお願ひし、通院・外出を始め、その他ご本人が安心できるような協力をお願ひし、ともにご本人を支えるチームの一員として支えていけるよう、ご家族との関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出や面会制限がかかるため、電話等での遠方のご家族やご友人等との連絡をおすすめし、手紙や電話、贈り物等のやり取りの仲介を通じ、なじみの関係を継続できるよう努めている。	コロナ禍の中、外出や知人の訪問が許可されないため、利用者は施設内で過ごすことが多い。面会制限がある中でも希望があれば、利用者との面会もできるよう取り組んでいる。今後、制限が緩やかになれば、その都度、面会等の対応を行なっていくよう考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様各自の性格や個性を把握した上で、毎日のあいさつや全員で楽しめるレクの提供、職員が仲立ちする形で各入居者様の出身地等の情報を話題にするなどで入居者同士の交流を深められるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人のサービス終了後も、フォローが必要と思われるご家族に対しては、意識的にその後の状況を確認したりなどのつながりを維持するよう努めているものの、実際の相談や支援につながることは少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のご本人、ご家族からの聞き取りや、入居後のご本人の生活の様子を観察し、随時検討を行っている。	日常的に利用者の思いや要望を聞いて、その都度、希望する過ごし方を支援している。利用者の生活歴や日々の関わりの中で職員同士が利用者の意向を共有し、その検討を回りながら定期的に情報交換を行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャー等からこれまでの生活歴や環境、サービスの利用状況等、出来る限りの情報収集に努めている。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活歴、身体状況に配慮し日々の生活の様子も観察しながら職員間で現状の把握に努めている。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の生活に対する意向、ニーズを伺ったうえでケアカンファレンスでの討議を経て介護計画の原案を作成し、ご本人・ご家族へ説明し同意を頂いている。	利用者や家族の要望、意見等を聞きながら、ケアマネージャーや職員の情報をもとに短期で4ヶ月、長期で12ヶ月の介護計画を作成している。計画書は家族に説明を行い、同意印を得ている。利用者の状況の変化に応じて、随時、介護計画の見直しも行なっている。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の支援経過を記録し、職員間で情報を共有している。また、特記事項などは業務日報等に別記載している。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば障害を持つご家族とご本人様との関係性を考慮し、地域の障害福祉サービス担当者と連携して対応するなど、ご本人、ご家族の状況を把握し、関係部署との柔軟な連携で包括的に支援できるよう努めている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ過で外出等に制限があるものの、普段から地域資源の把握、活用に努め、地域のお祭りなどへの参加や、名所へのドライブや作業体験などを行っている。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご本人、ご家族の希望を尊重しつつ、事業所の協力医療機関等を利用する際のメリットも説明し、納得して通院出来て医療面のサービスを円滑に継続できるよう援助している。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医の受診を実施している。受診時についてはできる限り、家族が同行しているが、できない場合は職員が同行し、受診を行なっている。家族にはその都度、受診報告を行い、適切な医療が受けられるよう支援をしている。協力医による月1回の定期往診があり、利用者の健康管理の支援に努めている。				
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームでの医療連携加算を算定し、法人内で勤務する看護師を配置して、日々の申し送り等で緊密に連携を取っており、休日・夜間もオンコール体制を敷いている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の基本情報を書面で提供し、病棟看護師にも口頭で情報提供を行うほか、電話等の連絡も随時行っている。また、病院のソーシャルワーカーとも連絡を取り、退院後のスムーズな復帰に備えた情報のやり取りに努めている。					

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居時に、重度化・終末期における当事業所の指針について書面で説明し、理解していただくよう努めている。また、実際に終末期を迎えた際は、関係機関と連携しつつ、円滑な移行を行えるよう支援を行っている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、利用者家族に説明を行い、確認のうえ同意を得ている。重度化が認められた段階で、家族や主治医と協議して方針を共有して最大限の支援をしている。今後の目標としては看取り体制をさらに整え、利用者や家族の希望に沿えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや看護師へのオンコール体制の他に、症状別対応マニュアルを常備し参考にしており、消防署主催の救急救命講習にも職員を派遣していたが、現在はコロナの影響で休止している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しているほか、年二回の避難訓練を実施しており、訓練時には地域住民への訓練参加もお願いしていたが、コロナのため現在は職員・入居者のみの訓練を行っている。	事業所建物全体(ディサービスセンターと高齢者賃貸マンションを含む)での合同避難訓練を年2回(昼夜を想定して)実施している。例年は消防署の立ち会いの上、地域住民も参加して行なわれていたが、コロナ禍のため今は事業所のみでの実施となっている。	長年3階建ての事業所建物を災害時の一時避難場所として地域住民に開放出来る可能性を検討しており、今後も引き続き行政と検討を重ねながら実現できることを期待する。コロナウイルスのような感染症も一つの災害の一つとして考えられてきている。災害マニュアルに感染症予防を盛り込んだ内容に整備されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「家庭的な雰囲気」を重視し、親しみやすさを大切にしながらも、入居者様個々の尊厳に配慮しバランスの取れた接遇を心掛けている。	事業所理念は「穏やかで尊厳のある生活」を掲げており、日々のケアではそれを踏まえた実践を行なっている。利用者の人格を尊重して慣れから来る不適切な言葉がないよう内部研修や職員間で話し合う努力を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションの中で入居者様が訴えや希望を話しやすい環境づくりに努め、個人の意思を尊重し安心して生活できるよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内のスケジュールを優先せず、ご本人の希望に合わせて入浴日を変更したり、起床時間や就寝時間なども、体調に影響が出ない範囲で個人の生活スタイルに極力配慮するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや要望を把握し、ご家族の協力も得ながらなじみの美容院に通ったり、好みの服を用意していただくなどしている。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食は職員も同じ食事を食べており、可能な入居者様には時折野菜の皮むきをお願いしたり、下膳や食器洗い、テーブル拭き等の後片付けも手伝っていただいたりしている。	母体法人がメニューを作成して、食材は外部から納入され、職員が利用者と一緒に調理などを行い、食事を楽しんでいる。利用者と日常の会話の中から好みに応じた誕生日食や季節食を考え食事を支援している。また、木曜日のみパン食にするなど、利用者が楽しんで食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の食事摂取量、水分量を毎日記録しているほか、禁食・制限食にも配慮を行いまた個人の好みや必要に応じ、おかゆや刻み、トロミをつけ介助するなどの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛け、見守り一部介助にて口腔洗浄を行っていただき、各入居者様の口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尊厳に配慮しつつ、各入居者様の排せつ状況を記録等を通じて把握し、声掛け誘導や介助、確認を行い各入居者様が極力自立した排せつを行えるよう個々に応じた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表により排泄パターンを把握して、日中は何気ない声かけを行ない、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から接種水分量や体操、運動と便秘との関係について職員から各入居者に説明し、運動や体操、水分摂取を積極的に行っていたりよう働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はあらかじめ設定しているが、ご本人の体調や受診・往診、外出等のスケジュールを考え入浴日や順番を臨機応変に変更し入居者様の負担をできるだけ減らすよう心掛けている。	週2回の入浴支援を行なっている。利用者がリラックスして入浴できるよう入浴剤やゆず湯等を考え、実践している。体調に合わせて、シャワー浴や清拭にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の体調や訴え等を見ながら対応し、生活リズムにも配慮しつつ、状況によっては服薬なども行い良質な休息・睡眠を確保できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のお薬手帳を管理し、薬局からの薬剤情報提供書を個人記録にファイルし、事あるごとに確認するとともに、通院記録等を通じ服薬変更などの情報も職員間で共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みの嗜好品を提供したり、カラオケ等のレクリエーション、誕生日会や敬老会、クリスマス会等のイベント、ドライブや花見、紅葉狩り等の外出も感染症に配慮しつつ行っている。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の影響で外出や面会は大幅な制限を余儀なくされているが、電話や短時間でもドア越しの会話など、可能な限りご本人、ご家族の希望に沿えるよう配慮し、繋がりを維持できるよう援助している。	冬期間以外で天気の良い日には散歩や近くのスーパーマーケット等に出掛けていたが、コロナ禍で自粛している。規制緩和時にはできるだけ外部の空気や気分転換が図れるような桜見物やもみじ見物等の外出支援の取り組みを考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所にて小口現金の管理を行っているが、入居者様によってはご家族の了解を得て自分用の財布を持ってもらい、仮に紛失しても差し支えない程度の現金を入れておくことも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、ご家族への連絡は随時行っているが、ご家族の過度な負担にならないような配慮も行っている。また、手紙等のやり取りも希望があれば援助したり、お礼の電話をするなどの対応も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、季節により飾りつけを変更したり、玄関に生花を飾ったりなど季節感を感じられるよう工夫し、居室内に入居者様の写真を飾ったり、逆に混乱しないよう不必要なものを別室に保管するなど、入居者様個々が安心して快適に過ごせるよう配慮している。	共用空間は広く、居間のソファなどで利用者は日中の大半を過ごしている。日当たりも良く、温度、湿度も適度に調整され、職員による徹底した消毒も行なっている。季節感ある飾りつけされている居間では利用者がゆったりと時間を過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、入居者様の相性やテレビを見やすい(聴きやすい)場所などを考慮した席決めを行い、入居者様同士がリラックスして雑談等に興じることができるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら、使い慣れた道具や家具、ご家族の写真や日めくりカレンダー等を持ち込んでいただき、希望があれば居室で自由にお茶等を飲めるようにポットのお湯を提供したりなど行っている。	利用者は使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、思い出の品や写真などを飾り、居心地の良い安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内は段差のないバリアフリーで、廊下に手すりを設置しているほか、入居者様個々の状況に応じトイレに近い居室の選定にしたり、見やすく「トイレ」等張り紙をするなどの工夫も行っている。		